

グラフで見る関西経済(2022年8月)

2022年8月25日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~持ち直しの動きが一服

【今月のポイント】

- 関西経済は生産、輸出の動きに見られるように、全体として持ち直しの動きが一服している。
- 生産(6月)は2ヵ月ぶりに増加したが、均してみると持ち直しの動きが一服している。
- 実質輸出(7月)は前月比-2.3%と2ヵ月連続で低下、持ち直しの動きが一服している。
- 個人消費は、物価上昇、コロナ感染再拡大などが懸念されるが、感染拡大防止と経済活動の両立が図られる中で持ち直しの動きがみられる。
- 公共投資は、7月の請負額が大幅減となったが、均してみると横ばい圏で推移している。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きが一服
生産	持ち直しの動きが一服
輸出	持ち直しの動きが一服(↓)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	横ばい圏で推移(↓)

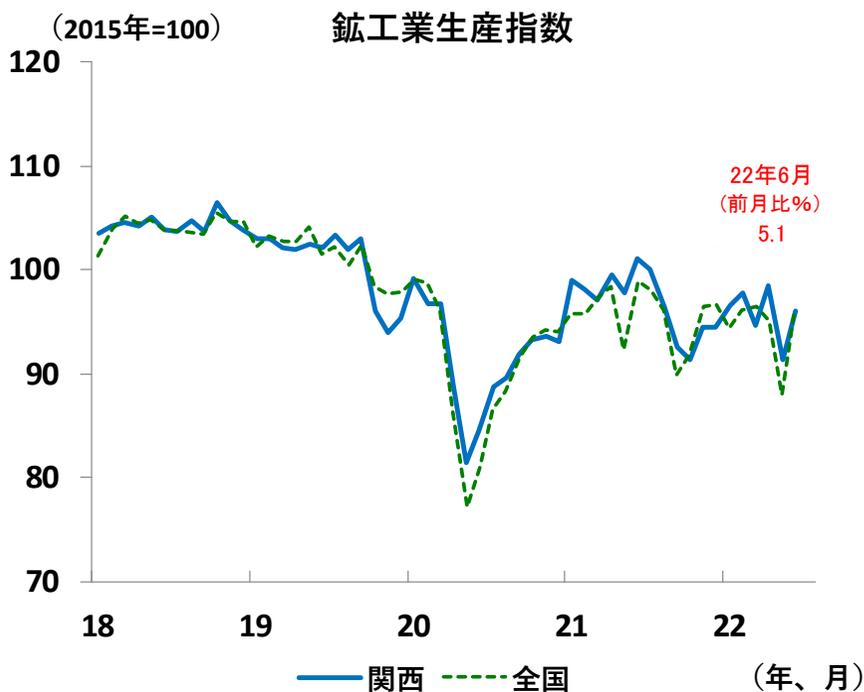
注: ()内は前月からの変化の方向

輸出は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

公共投資は、「増加している」から下方修正(↓)

生産

6月の鉱工業生産(関西)は前月比+5.1%と2カ月ぶりに増加したが、均してみると持ち直しが一服している。業種別では、電子部品デバイスが大幅減となる一方、電気機械、化学、汎用・生産用・業務用機械などが増加した。

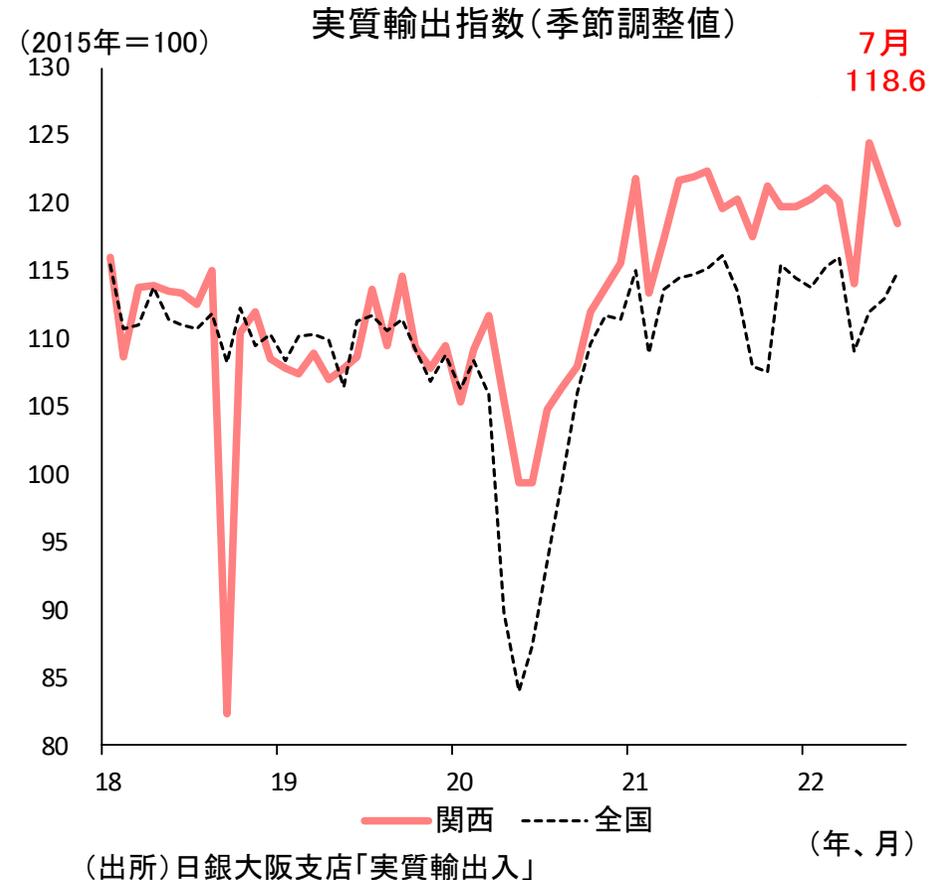
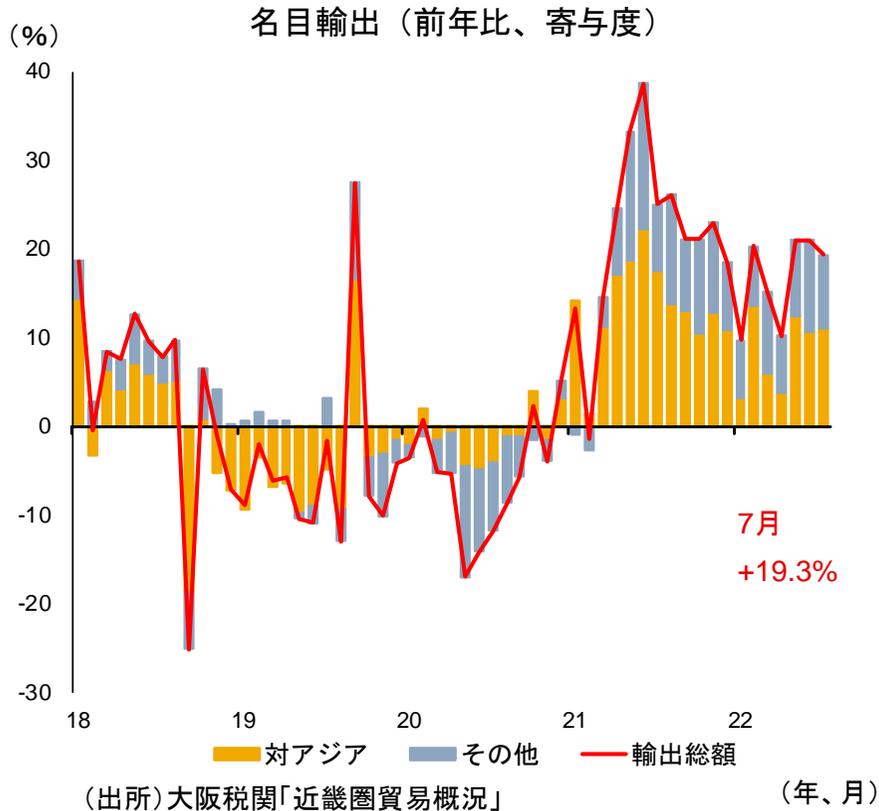


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

7月の名目輸出額は、円安等による価格上昇の影響もあって前年比では+19.3%と17ヵ月連続で増加した。地域別では、アジア、米国、EU、その他のいずれも増加した。品目別では、半導体等電子部品、鉄鋼、プラスチックなどが増加した。

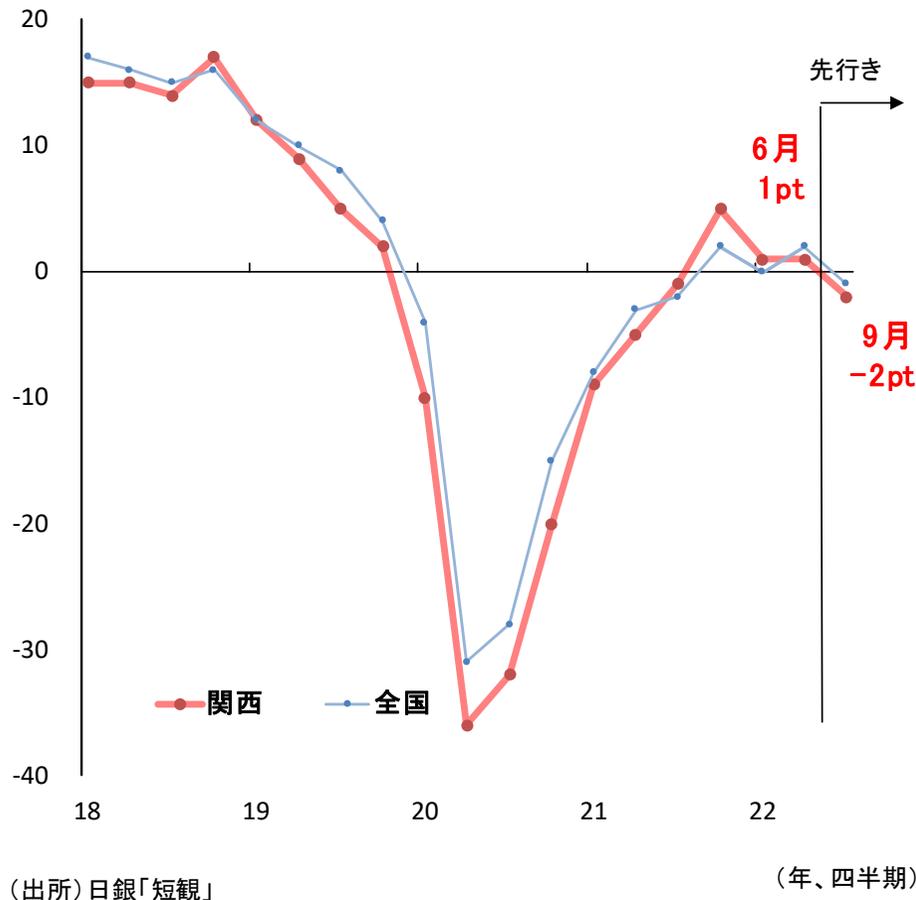
一方、7月の実質輸出(季節調整値)は前月比-2.3%と2ヵ月連続で低下となり、実質ベースでは持ち直しの動きが一服している。



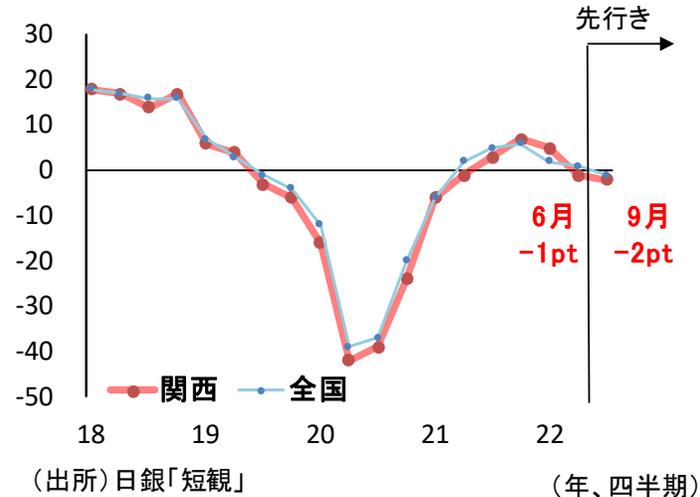
企業景況感(日銀短観) ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/3公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DIは、全産業で+1ptと3月調査から横ばい。製造業は-1ptと悪化した。非製造業は人流の戻りにより+3ptと改善した。先行き(9月)については、全産業、製造業、非製造業いずれも悪化が見込まれている。

短観 業況判断DI「全産業」

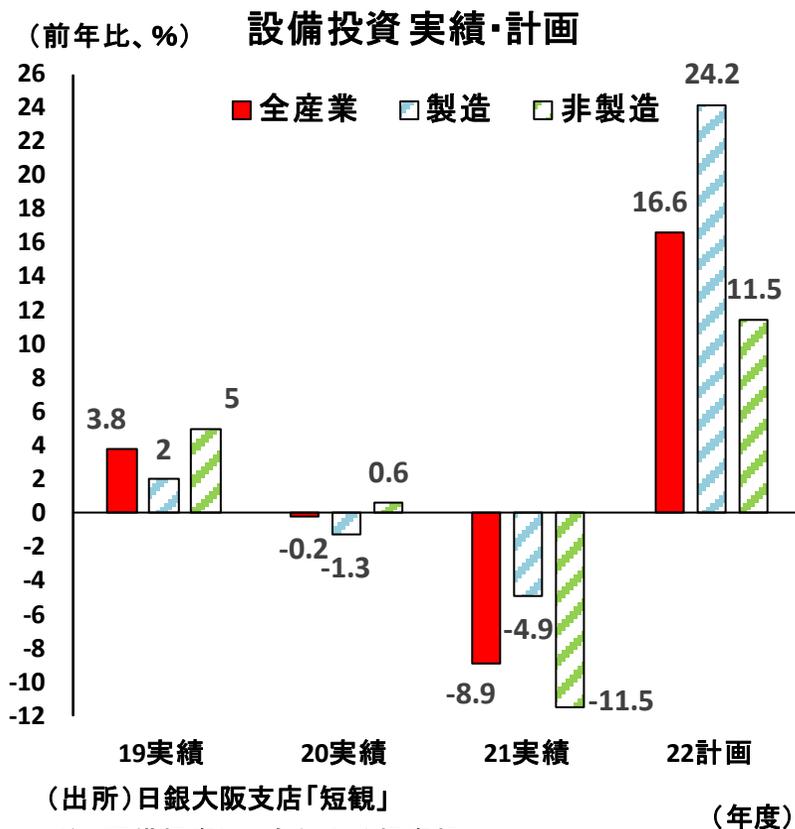


同 製造業



設備投資※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/3公表予定

日銀短観6月調査によると、21年度の設備投資(実績)は前年比-8.9%と2年連続で減少。鉄鋼、輸送用機械、小売などが大幅減となった。22年度は大幅増の計画。鉄鋼、はん用・生産用・業務用機械、建設、宿泊・飲食サービスなどで大幅増を見込んでいる。



設備投資額(前年比%)

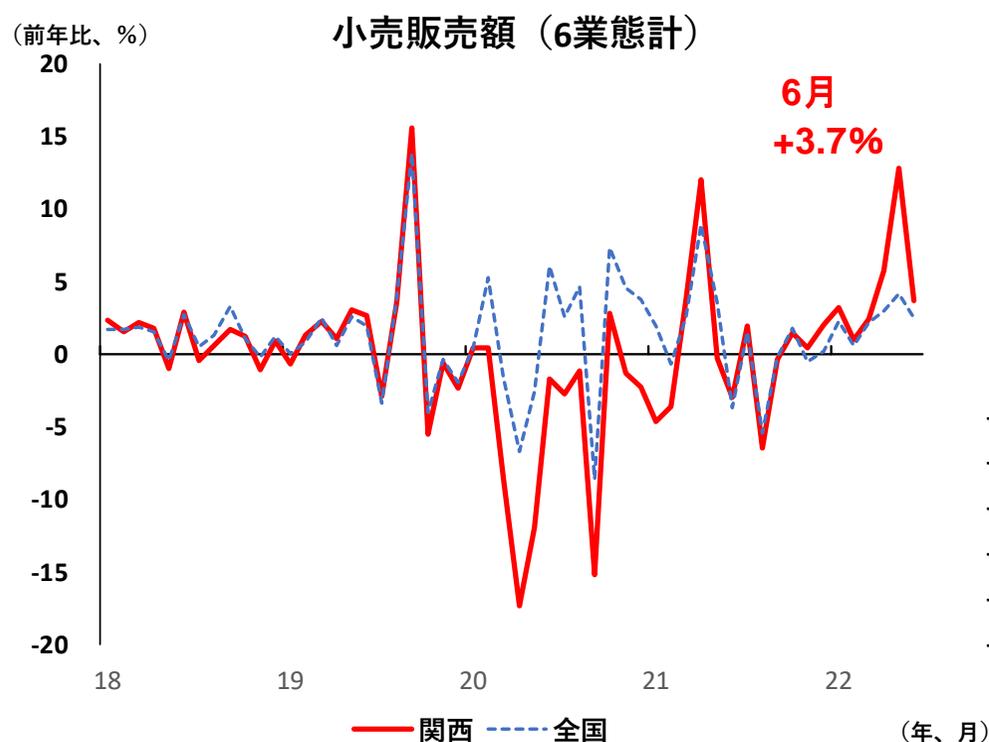
	21年度実績	22年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	-8.9	16.6 (14.9)	1.7
製造業	-4.9	24.2 (18.5)	5.7
非製造業	-11.5	11.5 (12.3)	-0.8

(注)日銀短観の設備投資計画では、例年6月調査において3月調査時から大きく上方修正される傾向がある(3月調査時点では、翌年度計画について未回答の企業があった場合、前年比増減ゼロと処理されるため)。

個人消費(小売売上、自動車販売)

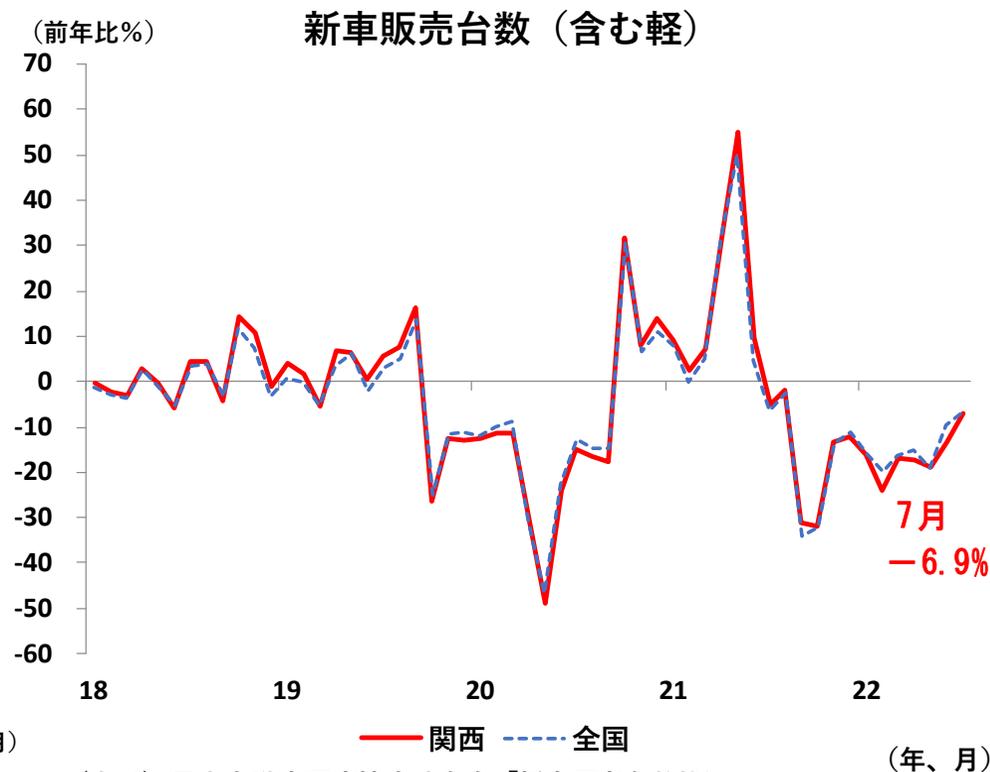
6月の小売販売額は前年比+3.7%と9カ月連続で増加した。ただし、コロナ前の2019年比では、インバウンドが戻らない中、-1.0%と減少している。先行きは、人流の戻りがプラス材料となる一方、物価上昇による消費抑制が懸念材料に。

7月の新車販売は、半導体など部品供給不足による生産調整の影響により、前年比-6.9%と13カ月連続の減少となった。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

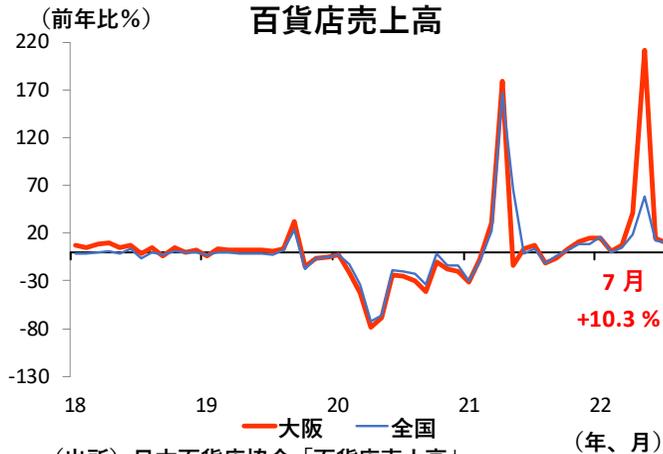


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

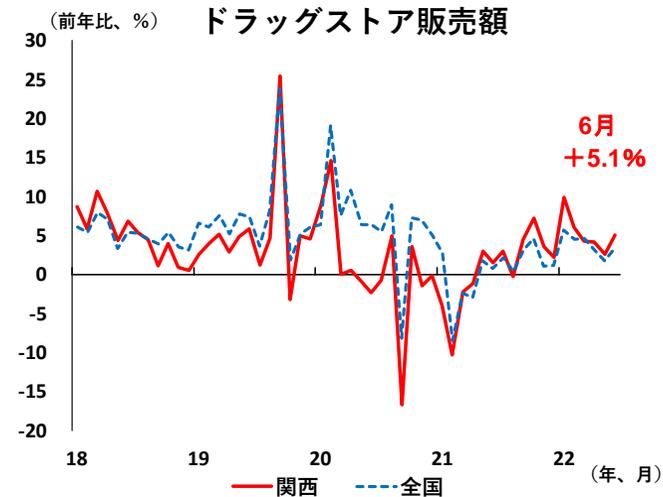
個人消費(業態別)

7月の百貨店売上(大阪)は前年比+10.3%と10ヵ月連続で増加したが、コロナ前の同月(2019年7月)比では-10.8%と低水準。京阪神百貨店免税売上は、コロナ前比では低水準ながら水準を上げてきている。

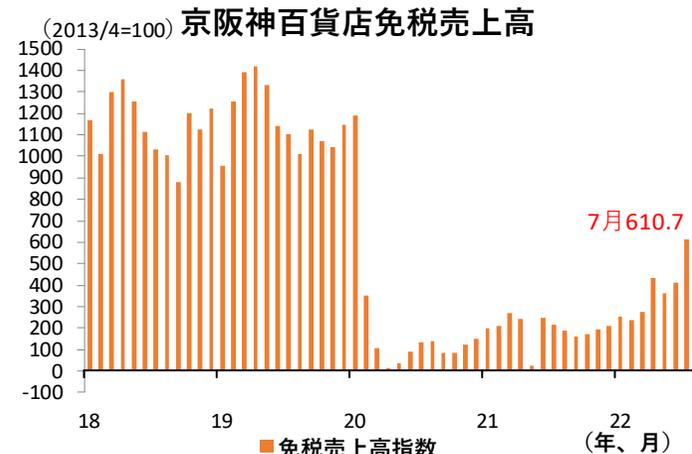


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

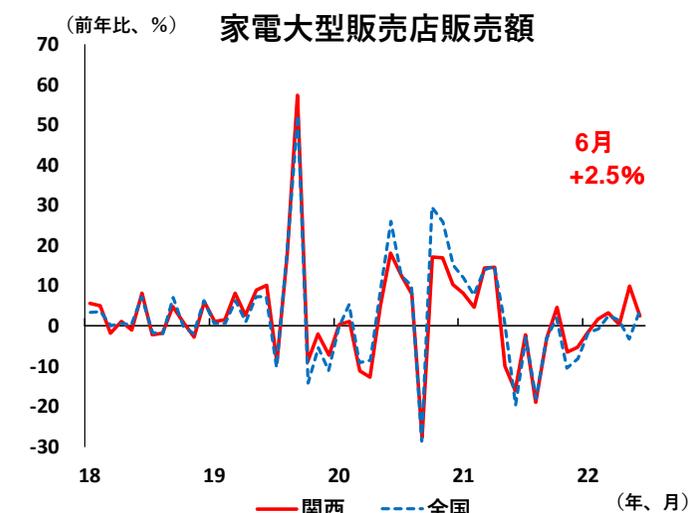
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



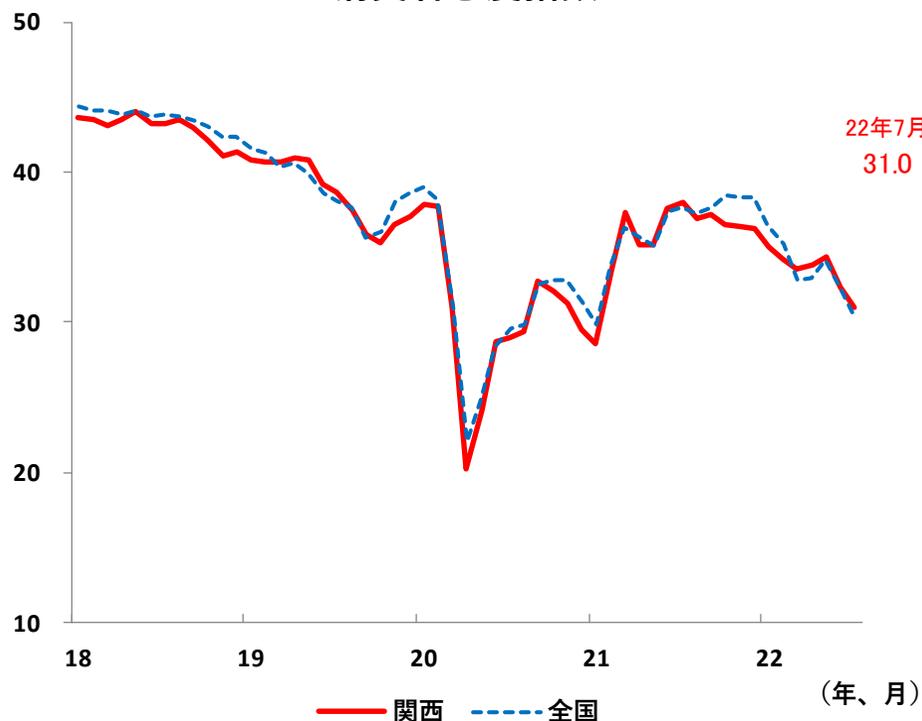
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

マインド・景況感

7月の消費者態度指数(季節調整値)は31.0と2ヵ月連続で低下した。

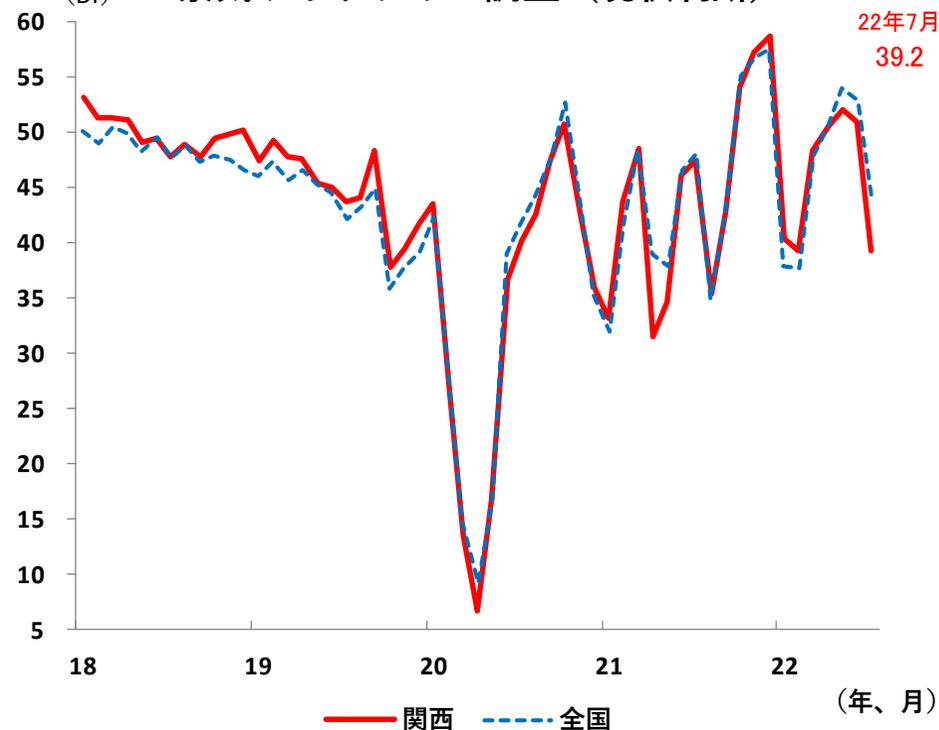
7月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、新型コロナウイルス第7波感染急拡大により前月差-11.8ポイントの39.2 と大幅に低下し、中立を示す50を4ヵ月ぶりに下回った。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

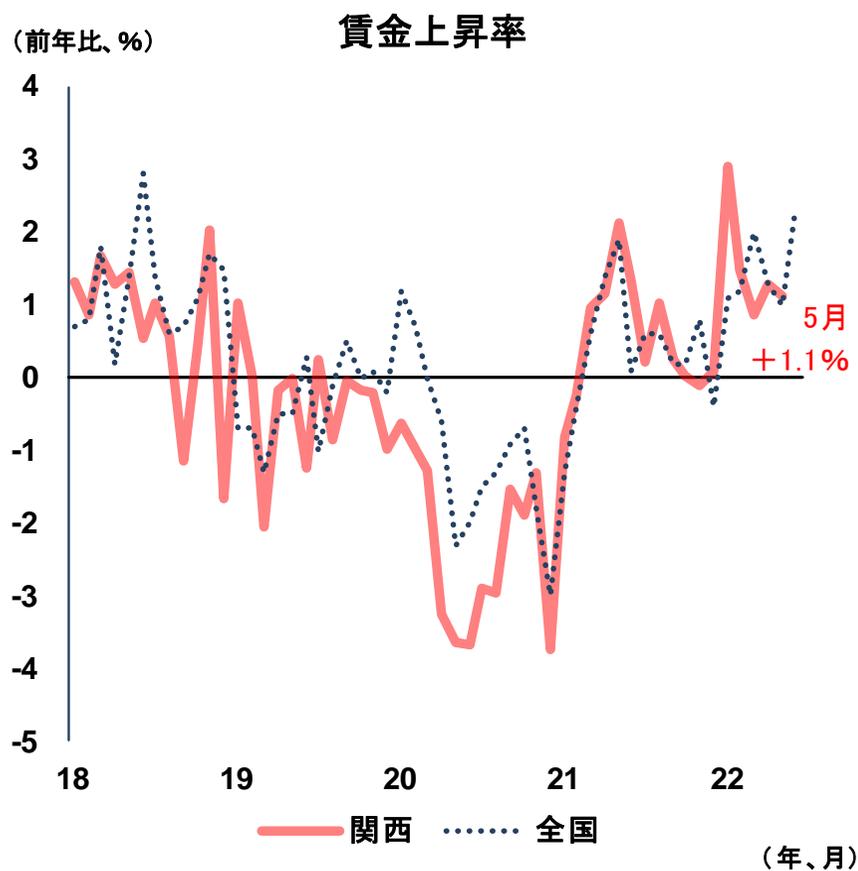
(DI) 景気ウォッチャー調査 (現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

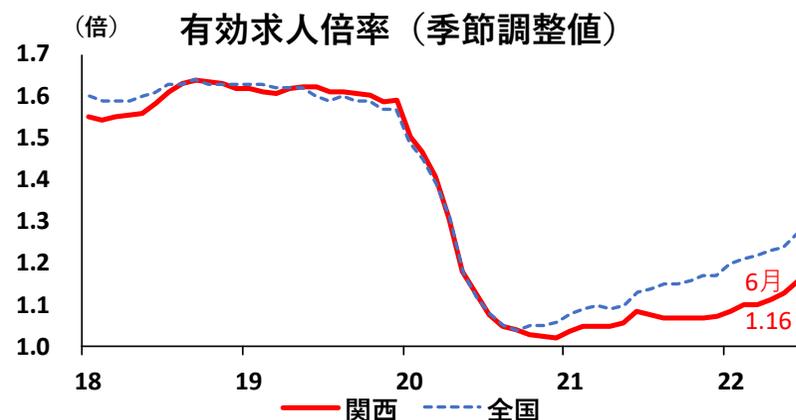
賃金・雇用

5月の名目賃金指数は前年比+1.1%と6カ月連続で増加。コロナ前の2019年比では-0.5%と減少した。6月の有効求人倍率は1.16倍と前月から小幅上昇。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。22年4-6月期の失業率は3.0%と前期より小幅上昇となったが就業者数は増加した

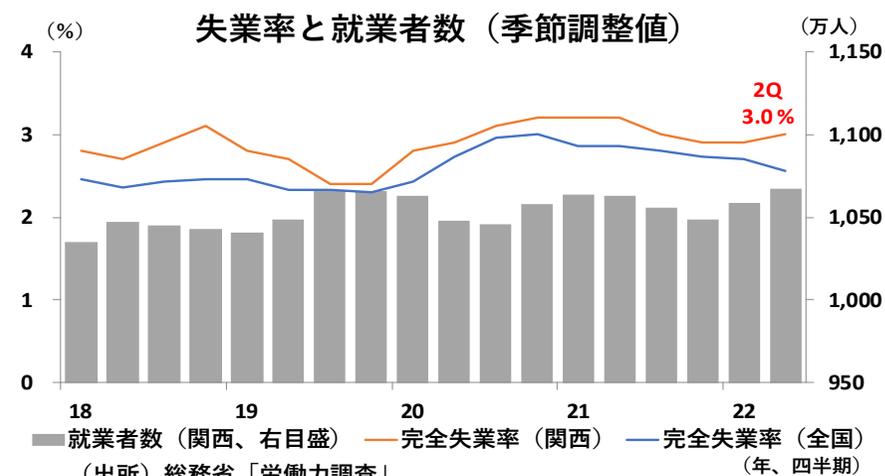


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」



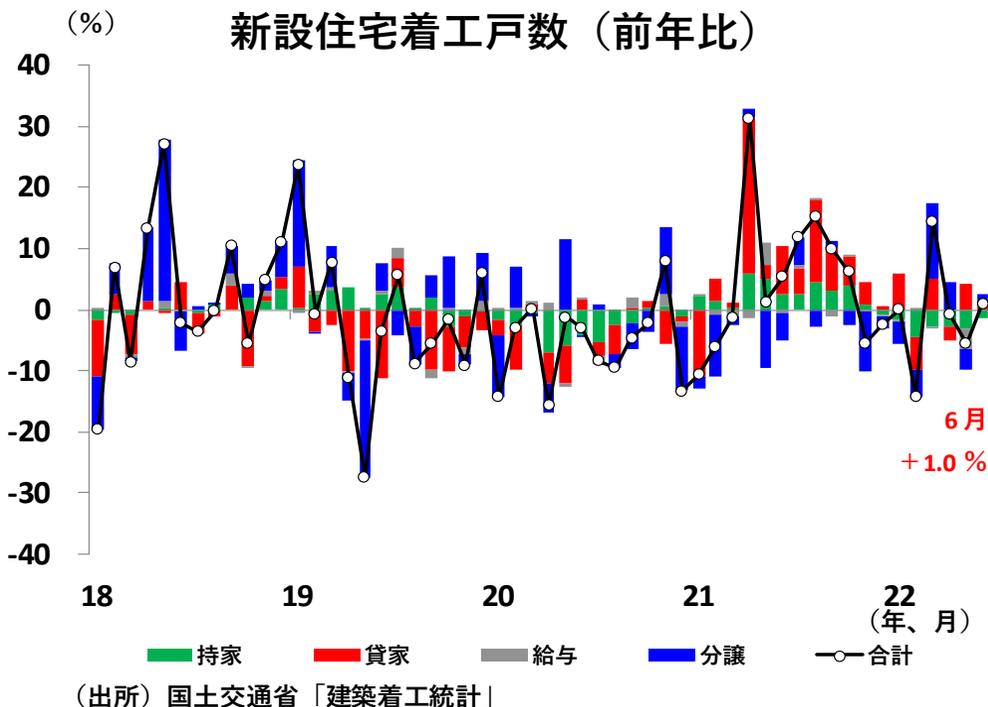
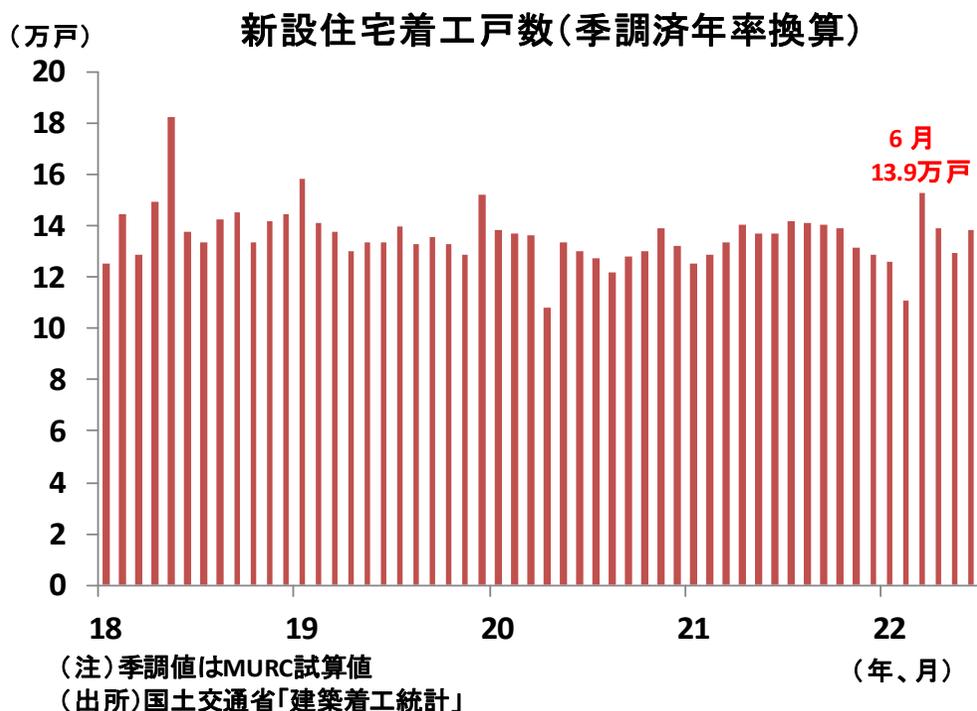
(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 総務省「労働力調査」

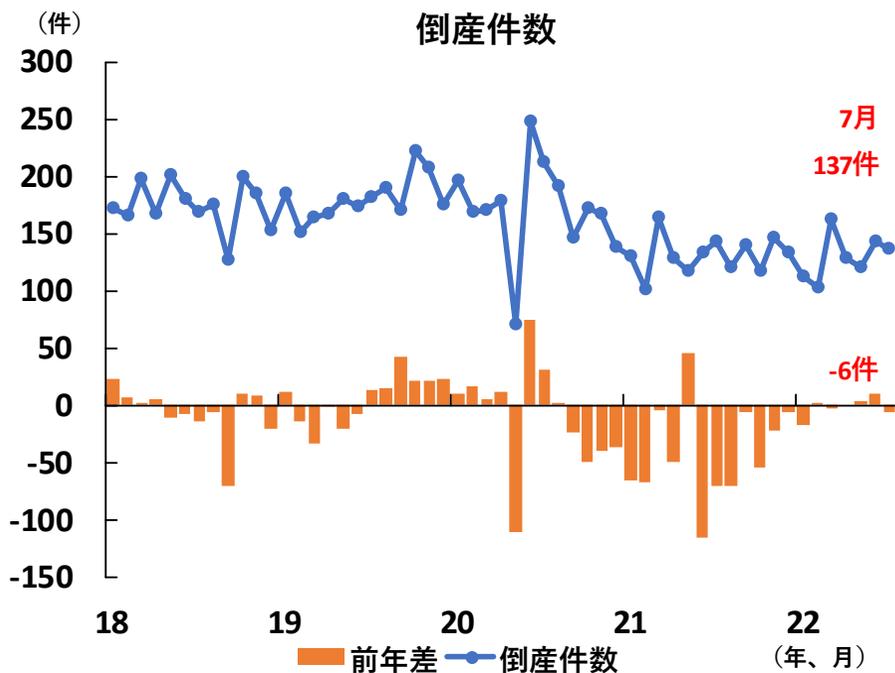
住宅投資

6月の住宅着工は季調・年率13.9万戸と3ヵ月ぶりに前月比で増加。均してみると横ばい圏で推移している。前年比では貸家、分譲が増加した。



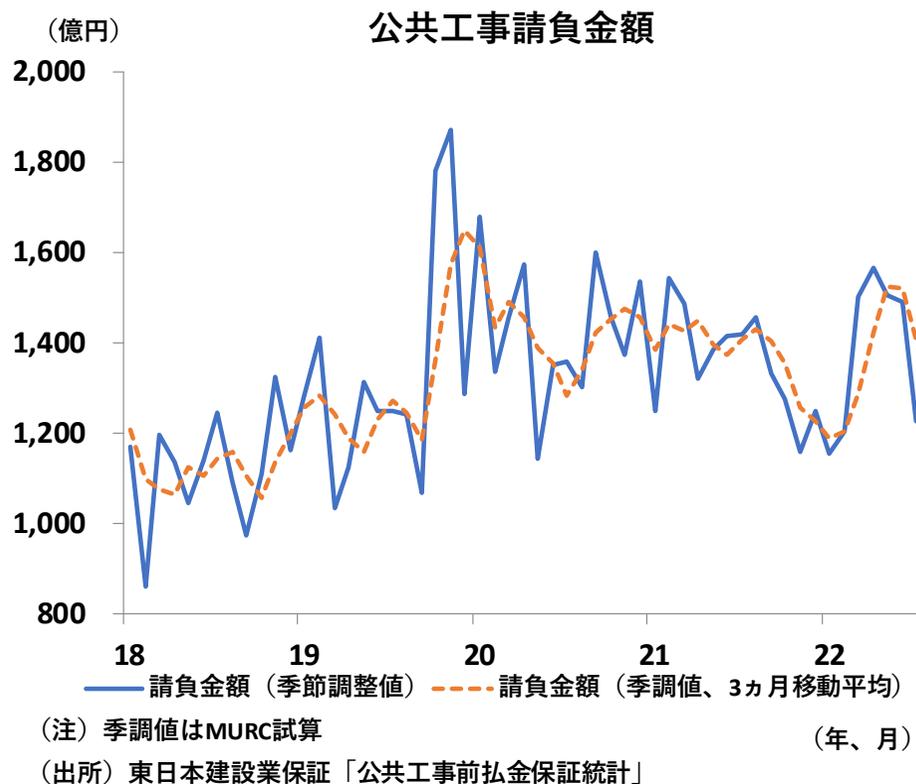
倒産

7月の倒産件数は137件と前年から6件減少、低水準で推移している。



公共投資

7月の公共工事請負金額は、季節調整済前月比で減少した。単月では大きな振幅となったが均してみると横ばい圏で推移しているとみられる。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください